応物講演会のシンポジウムに行こう!!

講演会企画・運営委員会委員長　**平本 俊郎**（東京大学）

学術講演会の講演には，大きく分けて「一般セッション」と「シンポジウム」の2つがあります．一般セッションでは，「光・フォトニクス」「有機分子・バイオエレクトロニクス」「半導体」「結晶工学」など，14の大分類の下に設けられた「III–V族窒化物結晶」，「有機太陽電池」などの約100の中分類をセッションのテーマにして議論が行われるのに対し，シンポジウムでは，旬のテーマやこれから注目されるテーマに関する講演が行われます．

シンポジウムを聴きに応物講演会に行こう!!

2017年秋季学術講演会（福岡国際会議場）では，以下25テーマのシンポジウムが開催されますので，興味のあるシンポジウムにぜひご参加ください．

誰でも企画できます

シンポジウムは誰でも企画して応募することができますので，「自分の研究分野で今話題になっている技術をテーマにシンポジウムを開催したい！」「今ホットな研究者を招待して議論をしてみたい！」などのご希望がございましたら，ぜひ応用物理学会までお問い合わせください．来春の講演会（早稲田大学）でのシンポジウムの企画申請の締切は，11月中旬の予定です．

シンポジウムに一般講演を投稿することもできます

シンポジウムは基本的に招待講演を軸に構成されますが，一般講演の投稿も受け付けております．招待講演が多いセッションで発表するのは少し緊張してしまうという方もいるかもしれませんが，ご自身の研究分野を扱うシンポジウムであれば，より多くの質問がもらえるかもしれませんし，招待講演者からも意見をいただけるかもしれません．投稿数が多く，残念ながら選考の結果枠外となった投稿も，関連する一般セッションに振り替えられて発表できます．ぜひ次回はシンポジウムも投稿先の1つとして検討してみてください！

会場イメージ．

2017年秋季学術講演会（福岡国際会議場）のシンポジウム一覧

◎特別シンポジウム　物質中のトポロジー：応用にどのように結びつくのか？
◎特別シンポジウム　IoTがもたらす近未来サービスと最先端デバイス技術
○科学技術の人材育成および教育の取組みとその活性化-九州地区-
○国際リニアコライダー計画とその技術
○フォトニクスにおける極限計測技術
○ハイブリッド量子系における電磁界制御
○酸化物のテラヘルツ光物性とデバイス応用への展望
○材料ナノテクノロジー：薄膜とナノ複合体の表面と界面
○新デバイス・材料開発のためのナノスケール3次元分析（I）
○先進農業に向けたプラズマ応用最前線～新たな植物生育環境の開発・制御～
○光とスピンが織りなす研究の最前線
○萌芽的デバイスとしての有機センサー—IoT時代に向けて—
○最新動向：生体材料と先端デバイスをつなぐ学際的アプローチ
○マルチスケールプロセスへの挑戦～ドライかウェットかそれとも…～
○IV族系半導体の製膜と低温結晶化（固相結晶化を中心に）
○GFIS（電界電離ガスイオン源）・先端イオン源顕微鏡技術とその材料・デバイス研究開発への応用
○新物質／量子構造に基づく発光デバイス研究の最前線と展望
○革新デバイスを支えるIII–V族半導体の成長技術
○窒化物半導体特異構造の科学～先進GaN電子デバイスのための結晶成長・評価・応用～
○転位研究の最前線～材料を越えた視点から見えてくるもの～
○シリコン結晶における不純物制御の科学～ゲッタリングが描くウェーハの未来像～
○機能性原子膜材料の最新応用研究と将来展望
○これからの未来を担う新ワイドギャップ酸化物材料Ga2O3
○フレキシブル環境発電デバイスの新展開
○多元系化合物・太陽電池のこれまでとこれから—多元系化合物・太陽電池研究会30周年記念シンポジウム—

※左上から2つめまでの「特別シンポジウム」は，講演会参加登録をされていない方でも入場無料で聴講することができます．

https://meeting.jsap.or.jp/symposium